



10号記念特集

ラジオ Radio らぢお



「まあ～、なんという事でしょう」

メーカーにちょっと驚いた

その1 5球スーパーが復活した！

「どなたか直して下さる方がいないかと…」

今夏、何かと教を乞うているKさんから、ラジオ修理の相談をされた。昭和27、8年頃に発売開始された真空管式ラジオ、サンヨー5球スーパーSS-148型＝写真下＝が壊れて、しばらく放置しておいたが、やはり、長年耳になじんだ真空管ラジオのあの音が忘れられないという。



そこで、すぐに思い浮かんだのが室蘭・昭和の会メンバーで、オーディオを中心とした電子部品調達の達人Tさん。早速、

ラジオ本体をリレーしたら、本業の合間を縫っての作業の末、数日で修理完了と相成った。

「いやあ～、まさか、この音を再び聴けるなんて」

つまみを回して通常の音量に回復したのを確認し、選局してNHKラジオ第1にセットするKさんの喜びように、こちらもほっとした。

5本ある真空管のうち、へたり具合が大きい3本を交換。経年劣化した内部のコンデンサーはすべて取り換え、受信の強弱や同調状態を示すマジックアイも新しいものにしたら、よ～く光ること。ご丁寧に、ポロポロだった電源コードも、昔の布うちケーブルにサービスで交換してもらった。

調べてみると、発売当時の値段は1万数千円。教師になりたてのKさんの初任給の1・5倍と踏んだが、「親父が買ったもので」という。なるほど、指折り数えると発売当時のKさんは、まだ中学生だった。

聴ける放送局はNHK第1と第2、HBCの3局だけだが、真空管式ラジオのやわらかい音質は何物にも代えがたいのだろう。

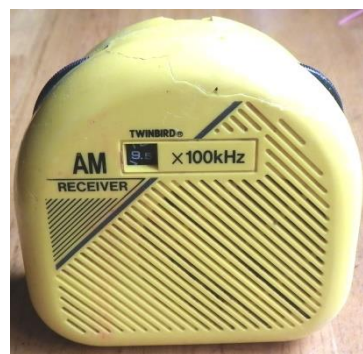
そして、親から子へと、使えるうちはあれこれ手を尽くして長持ちさせる精神にただただ感服。家族の歴史的遺産継承、ここにあり！ でしょうかね。

その2 わが家のおむすび型ラジオ

わが家にもラジオは数台あり、9年前の大停電時、電池式のそれは情報入手の貴重なツールとして大いに役立った。そのうちの1台というか、1個のおむすび型AMラジオは単三電池2本が必要だが、結構、電池の寿命は良好で長持ちしている。

片手で持てて、重さ200グラムほど。若いころはキャンプに携行していったから、これもレアものといえなくもない。周波数の表示窓の上に刻印された「TWINBIRD」なるメーカー名を基にネットで調べてみると、意外や、ベンチャー精神に富む日本の企業だった。

正しくは「ツインバード工業」なる新潟県燕三条に本社を構える家電メーカー。創業当初はメッキを主体とした電化被膜工業所だったが、その後家電製品を広く開発するようになったとか。



かつて、すき間産業なる言葉がはやったが、この会社もそのひとつ。最近では新型コロナウイルスのワクチンを運ぶ保冷庫の製造や国際宇宙ステーション「きぼう」に設置されたスターリング式冷凍機の開発製造も行っているというから驚きだ。

きっと、幾度かの経営危機のたびに、従業員がひたいを寄せ合い、汗を流し、打開の道を切り開いてきたのだろう。黄色い小型ラジオの独創的なおむすびフォルムが、それを物語っている。

おバかな実験

その3 NHKFM、R1、R2 同時に聴く

といっても、ラジオを3台並べて、FM、ラジオ第1、第2を同時に聴いたわけではありません。インタ

ーネットでブラウザを3つ開き、ラジオ配信アプリ「らじるらじる」でFM、R1、R2を同時に1つのスピーカーに流すという趣向。

10人の話を同時に聴いたという、あの歴史上の人物にどこまで近づくことができるか。そんなおバカな実験でして、その日、8月土曜の朝に流れたのは「ウィークエンドサンシャイン」(FM)に「山カフェ」(R1)、「英会話」(R2)。



耳を澄ますと、どうにか聴き分けられたが、集中力はきれぎれになり長続きしない。おまけに「何の意味があるの」と天の声も響いて10分足らずでトホホの実験終了となった。聖徳太子さま、おみそれしやした一であります。環境が整うお方は、一度お試しあれ。

Garden Tree



種から育てて20年以上になる白桃の樹が、今年は最期のひと花咲かせましようとお老木なりの悟りを開いたのか、それとも天変地異の前触れか、ゆうに五十個余りの実をつけた。これほど、実がなったのは初めてのことだ。



ピーク時の大きさは硬式野球ボール程度。残念ながらどれも内側の種のあたりが茶色く腐り、食べられるのはほんの一部。結局、鳥ちゃんの餌に一と放っておいたら、きのうもボタッ、きょう

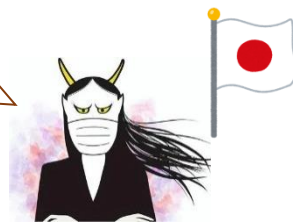
もボタッと熟柿ならぬ熟桃が枝を離れ、中には人が往来する道路わきのアスファルトにまでこぼれ落ちた。

通りかかった人の中には「なんじゃ、これは」と、足を止めて樹を見上げる御仁もいて、結局、ニュートンの法則が実証されるたびに、歩道や庭に出て回収作業にいそしんだ。

隣に育つ柿の木も実をつけ、今は赤ちゃんの握りこぶしサイズに。せめて、野球ボールくらいに育てくれれば干し柿作りに再度、挑戦するのだが…。

コロナイロニ

マスク着用
君が代、校歌、
声出し、禁止！
違反した生徒は
校長室へ



今度は歌うなかよ いつも強制 今度は歌うなかよ いつも強制 今度は歌うなかよ いつも強制

薫風 烈風

▶昨年12月の創刊から、月1回の発行ペースを保ち、やっと10号の一里塚にたどり着きました。仮に50号到達を目指す東海道旅に例えるならば、日本橋を発って小田原あたりで一服といったところです。1年で12回発行ですから、50号までは、え〜っと、え〜っと、まあ、旅に病で夢は枯野をかけ廻るまで頑張ろう。

▶横浜、岡山、そして登別、室蘭の友人、知人など、「おじさんズ通信」の郵送・送付・送信先は27カ所、つまり読者は現在27人也。私信としての送り先としては、この辺が手頃な人数ですが、つい「読みますか？」と声をかけてしまい、一人増え、二人増え…。おまけに今号では、4ページに増量して、85行に及ぶポール・エリュアールの詩「自由」を載せようかと企みましたが、(そんなに勇むな)の声が下りて計画倒れになりました。次の機会を待ちましょう。

▶9月に延期になった子ども劇場の野外行事が、北海道の非常事態宣言延長で、さらに10月に再延期になりそう。青空紙芝居の舞台装置類は既に出来上がったものの、再びお蔵入りです。にっくき新型コロナめ、と言いたいところですが、こんな時こそ、ゆったりリズムの日々を。それでは、皆さん、お元気で〜。

祝 おじさんズ通信10号到達



母恋めし本舗

